

平成 28 年度 企画展 II

熊本県の装飾古墳

円文と

三角文が

ウミダシタモノ

熊本県

北の装飾古墳

平成 28 年

10月12日(水) ▶ 1月22日(日)

平成 29 年

熊本県立 装飾古墳館

企画展開催にあたつて

現在、日本国内では660基の装飾古墳が確認されており、装飾には多様な文様が存在します。熊本県内においては、5世紀ごろ、円文や武器の線刻による装飾が八代海沿岸に登場します。その後、6世紀ごろには、彩色された三角文に代表される装飾が県北部の古墳にもみられるようになり、特に、菊池川流域に集中しています。

山鹿市チブサン古墳、玉名市大坊古墳、菊池市袈裟尾高塚古墳、和水町塙坊主古墳は、この地域の有力な豪族のお墓であり、山鹿市、玉名市、菊池市、和水町の古墳時代の歴史を今に伝えるものです。

京都帝國大學による装飾古墳総合調査100年目の今年、4月に発生した熊本地震は熊本県に住む私たちの生活に甚大な被害をもたらし、装飾古墳を含む多くの文化財も被害を受けました。復興は道半ばであります。改めてこの地域の宝である装飾古墳の保護を考える必要があります。本企画展が、来館者の皆様にとって、装飾古墳の歴史を知つていただく機会となりますことを願うとともに、開催するにあたつてご協力いただいた諸機関に心より御礼申し上げます。

平成28年10月12日

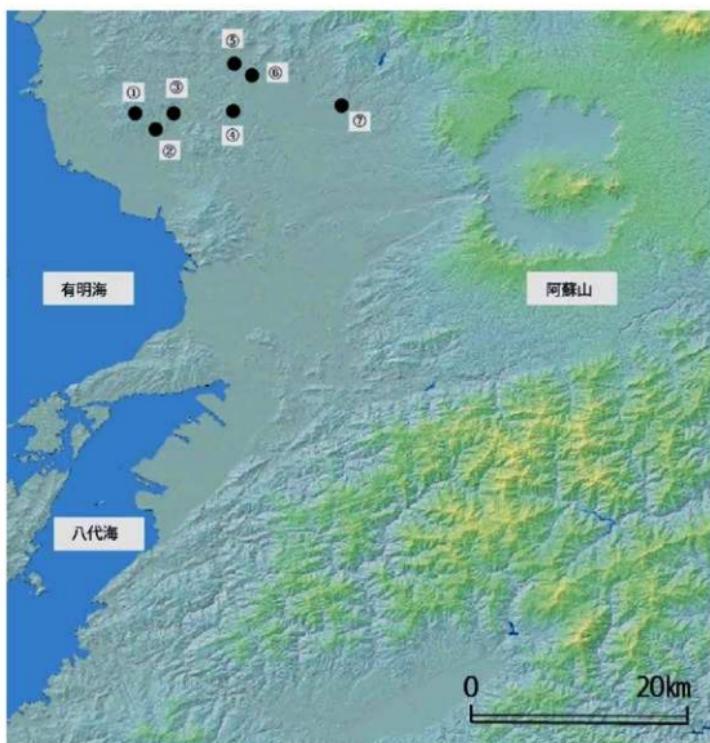
熊本県立装飾古墳館長 木崎 康弘

目 次

△企画展開催にあたって	熊本県立装飾古墳館長 木崎 康弘
△ 目次・例言	
△第一章 菊池川流域における装飾古墳の出現と展開	
△第二章 菊池川流域の首長墓にみられる装飾古墳	
△第三章 菊池川流域における装飾古墳の終焉	
△コラム 円文と三角文がウミダシタモノ	
熊本県立装飾古墳館学芸課 福田 匠朗	
20 特別論考 熊本地震における装飾古墳の被害について 熊本県立装飾古墳館学芸課長 坂口 圭太郎	
16 コラム 装飾古墳を愛した人 故・池田勝則さんを偲ぶ 熊本県立装飾古墳館学芸課 福田 匠朗	
15 一 平成28年度装飾古墳館 集中講座	
12 二 企画展特別ワークショップ「埴輪ストラップ作り」 京都帝國大學装飾古墳総合調査100年記念「肥後に於ける装飾ある古墳及横穴」を辿つて 平成28年9月10日から平成29年2月4日まで 全十三話	
8 午後1時から3時30分まで 会場 装飾古墳館 集団学習室	
4 四 企画展および本書の企画、編集は福田匡朗が担当しました。	
2 二 展示解説は、木崎館長、坂口学芸課長の指導の下、福田匡朗が担当し、西洋、伊藤幸子、菊川知美がこれを補佐しました。	
1 一 本書は、平成28年10月12日から平成29年1月22日まで開催する平成28年度企画展II「熊県北の装飾古墳—円文と三角文がウミダシタモノ—」の展示図録として作成しました。	

例 言





① 石貫穴観音横穴・石貫ナギノ横穴群 ② 大坊・永安寺東古墳 ③ 塚坊主古墳

④ 桜の上横穴群 ⑤ チブサン古墳・鍋田横穴 ⑥ 井慶ヶ穴古墳 ⑦ 製表尾高塚古墳

第1図 本企画展で主に対象とする装飾古墳分布

第一章 菊池川流域における装飾古墳の出現と展開

現在、日本国内では660基の装飾古墳が確認されています。全国で一番多く装飾古墳が現存する熊本県において、特に、菊池川流域には117基が集中しています（平成24年5月装飾古墳館による確認）。

県下の装飾古墳は、5世紀ごろ、円文や武器の線刻による装飾が八代海沿岸に登場します。菊池川流域で初めて装飾古墳が登場したのは、6世紀初めごろの塚坊主古墳であり、ます地域の首長墓に採用されたといえます。その後、装飾古墳は、この地域では中・小規模の古墳や横穴墓にも広がっていきます。

塚坊主古墳

【国史跡】 古墳時代後期

玉名郡和水町瀬川 所在

九州自動車道菊水IC付近、菊池川テルタの頂点にある台地上、標高約30mに所在します。昭和17・23年（1942・1948）に京都大学による発掘調査が行われましたが、盗掘により石室の一部が破壊され、天井石も移動していました。

その後、昭和26年（1951）、江田船山古墳、虚空藏塚古墳と同時に史跡指定されています。昭和50年（1975）に菊水町（現和水町）教育委員会による遺構確認調査が行われ、昭和56年（1981）には熊本県教育委員会による周溝の調査、平成2・4年（1990・1992）には史跡整備の為の確認調査が行われました。

調査成果によれば、全長43・4mの前方後円墳であったと考えられ、墳丘の南側に横穴式石室があり、奥壁に沿つて、石屋形が設置されています。横穴式石室に石屋形が用いられる古い事例の一つと考えられ、6世紀初頭ごろに築造された菊池川流域最古の装飾古墳と位置付けられます。また、石室内からは、

鉄鋒、四面鏡、馬具、耳環、玉類、須恵器破片等が出土し、周溝内からは須恵器、埴輪破片が出土しています。



第2図 塚坊主古墳の石室



第3図 塚坊主古墳出土 四獸鏡（熊本県教育委員会 所蔵）

桜の上横穴群〔東史跡〕 古墳時代後期 山鹿市鹿央町岩原 所在

菊池川左岸、菊鹿盆地の西端にある志々岐台地の凝灰岩斜面に所在します。この付近は、岩原横穴墓群、長岩横穴墓群など横穴墓の密集する地域ですが、桜の上横穴群では23基の横穴墓が確認されています。昭和48年（1973）年に史跡指定されています。

これらの内、I—1～5号横穴墓は複室構造です。I—1号横穴墓の玄室内

部は「コ」字屍床であり、装飾がみられます。I—6号墓も装飾が確認されています。装

飾された横穴墓の多くは、6世紀末ごろに造られたと

思われます。

I—1号横穴墓からは、須恵器片、鐵鍛片、鏃先、金環、1—2号横穴墓からは、人骨、鐵鍛、1—6号墓からは、鐵鍛片、馬具片、金環が出土しました。



第4図 桜ノ上 I—1号墓

石貫穴観音横穴・石貫ナギノ横穴群【国史跡】古墳時代後期

玉名市石貫
所在

玉名市石貫穴観音横穴・石貫ナギノ横穴群は、菊池川支流梁木川沿いに所
在し、標高約30mのところに石貫穴観音横穴があり、同じ舌状台地の南側に
石貫ナギノ横穴群があります。大正10年(1921)に史跡指定されています。

石貫穴観音横穴は5基の横穴墓からなり、そのうち1号から3号が裝飾横穴
墓です。1号横穴墓の装飾は飾り線にみられます。内側から第一の飾り線の内
面とその外面及び第二の飾り線の内面には赤と白の円状の点を配置していま
す。また、第二の飾り線の左外面には線刻で盾が描かれています。

2号横穴墓は、装飾が飾り線と玄室の仕切り石・底・奥壁にみられます。
3号横穴墓は、玄室内の仕切り石が赤く彩色され、ゴンドラ船を表現している
かに思われます。また、渓門の外面から飾り線にかけても全面が赤く彩色され
ています。

石貫ナギノ横穴群は、現在、48基の横穴墓が確認されています。6・8・9・
12・16・17・19・28・30・37・39・40・43・45号横穴墓に装飾があり、1・
24・26号横穴墓は、飾り線が彩色されています。

8号横穴墓は、装飾が渓門部、第一飾り線、玄室の石床、奥床の石屋
形前面と奥壁にみられます。9号横穴墓は、装飾が飾り線と石床の仕切り石、
石屋形の前面にあります。12号横穴墓は、装飾が石屋形の数か所にあります。
17号横穴墓は、装飾が左右の仕切り石と奥壁にあります。



第5図 石貫穴観音横穴 2号墓
(玉名市教育委員会 提供)

鍋田横穴 〔国史跡〕 古墳時代後期 山鹿市鍋田 所在

山鹿盆地の西側、菊池川支流の岩野川に面した台地に所在する横穴墓です。この大地の上にはチブサン古墳、オブサン古墳などの装飾古墳や箱式石棺が分布しています。現在、鍋田横穴では50基あまりが確認されていますが、それ以上に埋没している横穴墓も多数

あると考えられます。大正11年（1922）に国史跡に指定されています。

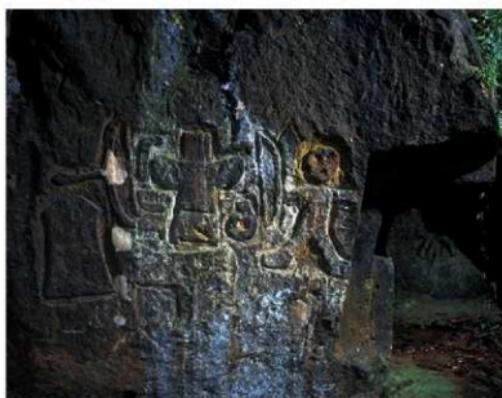
外壁や玄室内部

の装飾は、浮彫と線刻によるものですが、赤で彩色されたものもあります。

いずれの横穴墓も早くに開口していたと考えられ、残念ながら出土遺物は伝わっていません。



第6図 石貫ナギノ横穴群 8号墓
(玉名市教育委員会 提供)



第7図 鍋田27号横穴墓

△ 第二章 菊池川流域の首長墓にみられる装飾古墳

6世紀初頭、塚坊主古墳の築造以降、菊池川流域においては、地域の首長墓として装飾古墳が築造されます。これらの古墳は前方後円墳であり、小内墳や横穴墓に葬られた人たちよりも上位の階層の人であつたと考えられます。



チブサン



大坊

県教育委員会による発掘調査が行われています。後円部中央に横穴式石室があり、石室は狭道・前室、玄室からなりますが、羨道はほとんど失われています。

チブサン古墳 [国史跡] 古墳時代後期 山鹿市城 所在

山鹿市の平小城台地の東端が北から南へ傾斜する場所、菊池川の支流、岩野川の氾濫原近くに所在します。古くから乳の神様としての信仰があり、古墳名の由来にもなっています。

後円部の直径23m、高さ7m、埴輪・葺石をもつ全長約44mの前方後円墳です。

大正11年（1922）に国の史跡に指定されており、昭和47～50年（1972～1975）、石室の保存修理を目的とした山鹿市教育委員会による発掘調査及び石室の保存整備工事、平成3年（1991）、周溝確認を目的とした熊本

丘のくびれ部上には、石製表師（石人）が立っていました。現在、この石製表師は、九州国立博物館で展示されています。

また、かつて、



第8図 チブサン古墳の石室



第9図 チブサン古墳装飾

大坊古墳【国史跡】 古墳時代後期 玉名市玉名 所在

玉名平野北限、菊池川とその支流である錦川（繁根木川）の中間にあり、標高93mの飯森岳を主峰とする山丘の南斜面に位置します。舌状丘陵を利用し、後円部直径24m、全長約54mの前方後円墳です。昭和52年（1977）に国指定史跡となりました。

後円部中央に横穴式石室があり、石室は羨道、前室、玄室からなります。玄室の奥壁には石屋形が設置されており、装飾は、第一・二羨門の扉石、第二羨門の支柱石、石屋形に描かれています。石室内部からは、須恵器、土師器、馬具、直刀、鉄劍片、鉄鋒、鐵鍔、鐵斧、耳飾、玉類等が出土しました。



第10図 大坊古墳出土 土師器

（玉名市教育委員会 所蔵）

全体に黒漆を塗布した痕跡が確認されます。

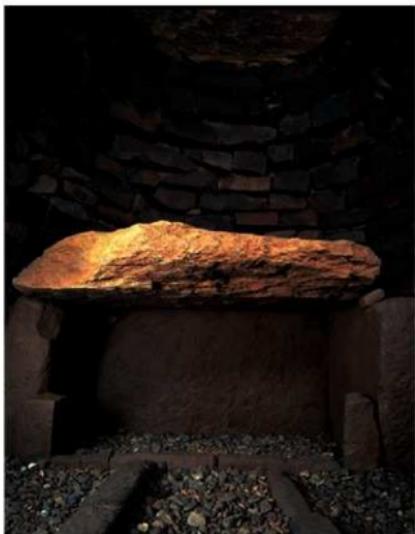


第 11 図 大坊古墳出土馬具（玉名市教育委員会 所蔵）



第 12 図 大坊古墳の石室

袈裟尾高塚古墳
【県史跡】 古墳時代後期 菊池市袈裟尾 所在



第13図 袈裟尾高塚古墳の石室

菊池川の支流、迫間川中流の右岸、高塚台地の頂上（標高38m）に立地しています。直径約18m、高さ4mの円墳です。横穴式石室内部は、羨道、前室、玄室からなり、玄室には石屋形があります。装飾は、石屋形奥壁にあります。昭和5年（1930）に盗掘され、須恵器、土師器、刀子片、馬貝、ガラス玉、金環が出土しました。昭和49年（1974）、熊本県教育委員会が実施した装飾古墳総合調査では、須恵器、馬貝、ガラス玉が出土しました。

昭和50年（1975）、県指定史跡となりましたが、その後、昭和56年（1981）、保存整備工事の際、羨門の盾石の一枚に輪を彫り込んだ石材が確認されています。写真はこの石材です。これが古墳建造に伴い製作されたのか、別の古墳から石材を転用したものかは明らかではありません。



第14図 袈裟尾高塚古墳の装飾石材

△ 第三章 菊池川流域における装飾古墳の終焉

5、6世紀に熊本県内で隆盛した装飾古墳ですが、7世紀以降は高塚古墳そのものの築造があまり見られなくなります。このような時代背景の中、菊池川流域では、山鹿市弁慶ヶ穴古墳が山鹿市域、玉名市永安寺東古墳が玉名市域において、装飾古墳の首長墓として築造されるのです。



弁慶ヶ穴古墳 【国史跡】 古墳時代後期 山鹿市熊入町 所在

標高4.16mの震岳から舌状に突出した熊入台地の西端、標高40mの地点にあります。近世以降、周囲は墓地が営まれており、現状では円墳と考えられます。横穴式石室内部は、羨道、前室、玄室からなり、玄室には石屋形があります。昭和31年（1956）に史跡指定されました。装飾は、石屋形両袖石の小口、前室、羨道の左側壁などにあります。元来は石室の側壁全面にあつたと考えられます。石室内部からは、馬貝、刀装貝、鐵鍼、耳飾が出土しました。



第15図 弁慶ヶ穴古墳の石室



第16図 弁慶ヶ穴古墳出土 馬具(雲珠)
(山鹿市教育委員会 所蔵 出展は左のみ)



第17図 弁慶ヶ穴古墳出土 刀装具(鍔)
(山鹿市教育委員会 所蔵)

玉名平野の奥地、低丘陵の末端に立地しています。現状の墳丘は、円墳と考えられます。平成4年（1992）に史跡指定されました。横穴式石室内部は、羨道、前室、玄室からなり、玄室には石屋形があります。装飾は石屋形、前室にあります。出土遺物は現存していません。



第18図 弁慶ヶ穴古墳装飾



第19図 永安寺東古墳



3D 装飾古墳 永安寺東古墳

(装飾古墳館レプリカ)

スマホやタブレットで QR コードを読み込むと、
3D モデルが表示されます。

近年、文化財の世界では、SfMによる三次元計測の導入が広まりつつあります。装飾古墳は、装飾の保護の為、當時公開していく古墳は多くありません。そこで、誰でも活用可能なこの技術を導入することにより、多くの方に装飾古墳の世界に親しんでいただくことが可能になるといえます。



コラム 円文と三角文がウミダシタモノ

熊本県立装飾古墳館 学芸課 福田 匠朗



太均

では、初期段階の装飾古墳は、どのような装飾が描かれたのでしょうか。古墳時代には色彩されたものではなく、線刻あるいは浮彫された円文が主流です。これらの円文は、外区に椭円文を有したり、紐で吊るしたようでもあります。また、宇城市小田良古墳の円文と較を交互に配置する表現は、熊本市にある千金甲一号墳に繼承されます。

古墳時代の鏡を表現しているとも考えられます。また、嘉島町にある井寺古墳、千金甲一号墳は、線刻あるいは浮彫だけでなく、彩色されています。井寺古墳はこの地域の首長墓と考えられ、井寺古墳の築造は、嘉島町にある井寺古墳、千金甲一号墳は、線刻あるいは浮彫だけでなく、彩色されています。井寺古墳はこの地域の首長墓と考えられ、井寺古墳の築造は、

嘉島町にある井寺古墳、千金甲一号墳は、線刻あるいは浮彫だけでなく、彩色されています。井寺古墳はこの地域の首長墓と考えられ、井寺古墳の築造は、

5世紀の終わりころ、熊本平野周辺にも装飾古墳が広がりますが、上益城郡

5世紀の終わりころ、熊本平野周辺にも装飾古墳が広がりますが、上益城郡

嘉島町にある井寺古墳、千金甲一号墳は、線刻あるいは浮彫だけでなく、彩色されています。井寺古墳はこの地域の首長墓と考えられ、井寺古墳の築造は、嘉島町にある井寺古墳、千金甲一号墳は、線刻あるいは浮彫だけでなく、彩色されています。井寺古墳はこの地域の首長墓と考えられ、井寺古墳の築造は、日本では、現在、大隅府柏原市安福寺境内に保存されている石棺など、4世紀ごろから装飾が確認されます。その後、熊本県では、5世紀ごろから石障（横穴式石室）内部に板状に加工された石材を立て、遺体を置く場所を囲む施設）がある古墳、箱式石棺（石材で四方を開み遺体を置く箱状の空間を作り、上部も石材で覆った施設）に装飾があるものが登場します。熊本県における装飾古墳は、5世紀ごろ、現在の八代市、上天草市周辺でみられるようになります。これら

日本では、現在、大隅府柏原市安福寺境内に保存されている石棺など、4世紀ごろから装飾が確認されます。その後、熊本県では、5世紀ごろから石障（横穴式石室）内部に板状に加工された石材を立て、遺体を置く場所を囲む施設）がある古墳、箱式石棺（石材で四方を開み遺体を置く箱状の空間を作り、上部も石材で覆った施設）に装飾があるものが登場します。熊本県における装飾古墳は、5世紀ごろ、現在の八代市、上天草市周辺でみられるようになります。これら

玉名郡和水町にある前方後円墳、塚坊主古墳の築造は、そのきっかけといえます。まず地域の首長墓の前方後円墳に装飾古墳が採用される点は重要です。塚坊主古墳に描かれた連続三角文は、菊池川流域に多い装飾文様ですが、千金甲一号墳に描かれた二段のX字文にみられる幾何学的表現の継承を見ることがあります。このように、円文と三角文がウミダシタモノ、熊本県内の装飾文様の交流を読み取れるのです。

その後、築造された山鹿市チブサン古墳、玉名市大坊古墳は、やはり前方後円墳であり、菊池川流域の首長墓です。地域の首長墓に採用された装飾古墳は、中・小規模の円墳、横穴墓にも漫透していくことになります。



八代市 たかわち 田川内 1号墳



上天草市 長砂連古墳



せごんこう 千金甲一號



つかはらだい 塚坊主古墳



永安寺東



特別論考 熊本地震における装飾古墳の被害について

熊本県立装飾古墳館 学芸課長 坂口 圭太郎

1 熊本県内の装飾古墳の概要

熊本県内には、1,955基^{注1)}の装飾古墳が存在する。その分布は、南は球磨、人吉から北は荒尾に至る、各水系に分布している。中でも県北の菊池川流域には、1,177基^{注2)}が確認されており、6世紀の前半から装飾古墳が終焉を迎える七世紀初頭まで、熊本県内において、最も装飾古墳が集中する地域でもある。

5世紀ごろに八代海沿岸部の石棺に描かれて、副葬品を模した装飾文様が、次第にその装飾文様や技法を変化させながら、6世紀には菊池川流域に広かりを見せ始める。4世紀末から7世紀初頭まで続く装飾古墳は、当時の生死觀を伝える貴重な文化遺産である。

2 平成28年4月に発生した熊本地震について

平成28年4月14日21時26分に熊本県で発生した地震（前震）は、翌15日には気象庁により「平成28年（2016）熊本地震」と命名された。気象庁震度階級では最も大きいとされる震度7を熊本県益城町で観測する事態となった。翌15日には震度3以上を30回以上観測し続けていた。そして、最初の地震から約28時間後の4月16日の午前1時25分に最大震度7の地震（本震）が発生した。この熊本地震は、南北方向に張力軸を持つ断層型地震とされ、17日の政府の震度調査委員会では布田川断層帯が震源断層とする見解が報告されている。阪神淡路大震災と東日本大震災に続く規模の広域かつ大規模な激甚災害である。

る熊本地震から約4ヶ月が過ぎた現在、ようやく余震が收まりつつある。

しかしながら、熊本県南には日奈久断層もあり、織豐時代の文禄5年（1596）に発生した慶長伊予地震、慶長豊後地震、慶長伏見地震が連続して発生した事例もあり、いまだ予断を許さない状況が続いている。この熊本地震では、家屋の倒壊が発生すると共に、土砂崩れなどにより多数の方々が被災している。

3 熊本地震による文化財の被害

熊本地震では多くの文化財にも被害が及んでいる。

国特別史跡熊本城では、再建された天守閣は多くの屋根瓦が落下し、平成28年8月現在、天守閣内部の被害状況は不明のままである。また石垣の崩落は各所で発生しており、熊本市役所前の崩が約100メートルにわたり倒壊した。また16日の本震で、築城当初から残っていた重要文化財の東十八間櫓・北十八間櫓も倒壊している（第20図）。

また、熊本県庁近くの

水前寺公園にある熊本洋学校教師館ジエーンズ邸宅が倒壊するなど、多くの建造物も被災している。益城町と同じく、地震の揺れが大きかった阿蘇市においては、重要文化財に指定されている阿蘇神社の楼門と拝殿が全壊している。



第20図 倒壊した東十八間櫓

熊本市にある大慈寺の石塔は北方向へ横倒しになつており、地震に揺れた方角が推測できる。このように芯柱を持たない石造文化財の多くが被災していると考えている。単に修復して積み直すのではなく、再び同様な地震に見舞われたときにはどのようにこれらの文化財を保護していくかの検討が必要であろう。

4 熊本県内における国及び県指定の装飾古墳の被災状況

熊本県における装飾古墳の被災状況として、7月15日現在、県文化課で確認出来たものは9件(註3)である。しかししながら、これらの国及び県の指定史跡以外の装飾古墳にも被害は及んでおり、軽微な被害を含めると、その全容は不明である。今後も継続して、調査確認が必要である。

5 熊本県内の装飾古墳の被災状況

前章で述べたように、今回の熊本地震での文化財の被災はその全容がつかめないほど深刻である。特に前例にない余震の規模と回数(註4)により、文化財「ダメージ」が蓄積している。ここでは、県北の国史跡と県史跡に指定されている装飾古墳の被災状況について、述べる。

(1) オブサン古墳

【国史跡】 山鹿市城 所在

6世紀後半ごろの築造と考えられる。築堤があり、円墳で表道部が人口に向かってやや開き氣味に造られている。奥壁の仕切り石に彩色で連続三角文が描かれている。今回の地震では、表門の天井石が一部崩落し、地震の揺れにより石室の積み石間の土砂が流失している。

(2) 鶴窓古墳

6世紀後半ごろの築造と考えられる。菊池川の中流域にある装飾古墳である。



第21図 石室内の土砂流失状況
(甲元眞之氏 提供)



第22図 石室内のき損状況
(玉名市教育委員会 提供)

奥壁と右側壁に彩色で駒等が描かれている。今回の地震では石室内の積石の孕み出しと割れ及び石材の隙間に充填されていた土砂が流失している。

(3) 製塙尾高塚古墳

【県史跡】 菊池市製塙尾 所在

6世紀後半ごろの築造と考えられる。菊池川の最も上流域にある装飾古墳である。奥壁に線刻画が描かれている。今回の地震では石室内の積み石の隙間に充填されていた土砂が流失している(第21図)。

(4) 永安寺東古墳

【国史跡】 玉名市玉名 所在

7世紀初頭ごろに築造されたと考えられる。熊本県内で造られた最後の装飾古墳である。復室構造の袖石に連続する三角文を、両側壁に円文や舟、馬などを赤色で彩色している。今回の地震では、石室内の積み石の割れと剥離があり、一部転石も確認されている(第22図)。特に装飾部位の剥離が報告されており、今後の修復方法の検討が必要である。

(5) 永安寺西古墳 【国史跡】 玉名市玉名 所在

6世紀後半ごろに築造されたと考えられる。玄室の奥壁と両側壁に円文が、線刻された後、赤色で彩色されている。今回の地震では、石室内から土砂が流出し、風防室の床面まで堆積している(第23図)。

(6) 釜尾古墳 【国史跡】 熊本市釜尾町 所在

6世紀前半ごろに築造されたと考えられる。前室が発生した翌15日に墳丘の亀裂が報告された(第24図)。また墓道の入り口に設置された鉄扉の上の石積みが崩落したため、内部の状況が不明のままであった。

8月17日に文化庁及び県文化課・熊本市民文化振興課の立会の下、奈良文化財研究所によつて、小型カメラによる石室の確認が実施された。その結果、本調査において石室や羨道部に大きな崩壊は生じていないことが判明したが、羨道部と石室の石積みが一部崩落している。今回の調査手法は、不安定になつてゐる石室内に立ち入らずに、き損状況を確認することができる手法である。また、今後の修復に向けて貴重な調査となつた。



第23図 石室内の土砂流失状況
(甲元真之氏 提供)



第24図 墳丘の亀裂



第25図 石棺のき損状況



第26図 外扉のき損状況

(7) 石之室古墳 【国史跡】 熊本市南区城南町塚原 所在

本古墳は和水町の江田船山古墳と同じ横口式家形石棺を埋葬施設とするものである。6世紀初頭に築造されたと考えられる。熊本市南区城南町は嘉島町に隣接しており、今回の熊本地震で強い揺れを観測した地域である。国史跡の塚

(8) 井寺古墳 【国史跡】 上益城郡嘉島町鯉 所在

5世紀末ごろには築造されたと考えられ、この古墳の装飾は、石室の玄門と石障全面に直弧文を線刻し赤と白と緑の彩色で表現している。直弧文は、福岡県八女市の石人山古墳の石棺にみられる装飾であり、北部九州に多くみられる。本古墳では今回の地震で甚大な被害が確認されている。石室入口の外扉が地震の影響で歪み(第26図)、内部の確認ができないため、文化庁の立会の下、奈良文化財研究所によつて小型カメラによる被害確認を実施した。

その結果、石障の一部にき損や石室の積石が、地震の揺れによる孕み出しと

石材の一部が落としていた。本古墳については文化庁、県文化課、嘉島町が協力し、今後の修復に向けた検討が進んでいる。

(9) 桂原1号墳【県史跡】宇城市不知火町長崎 所在

6世紀後半ころに築造されたと考えられる。奥壁に彩色で同心円文が描かれている以外は、全て線刻画である。描かれている装飾は帆船または櫂をもつ船である。

今回の地震では、地震の揺れにより、石室内の積石に割れと孕み及び転石が確認されている。

(10) 大戸鼻古墳群【北・南】【県史跡】上天草市大戸鼻 所在

本古墳は、5世紀後半から6世紀初頭ころにかけて築造された古墳群である。3基からなり、このうち2基が装飾古墳である。今回の地震では比較的の揺れが小さいとされる場所ではあったが、4月16日以降に頻発している余震により被災したと考えられる。北・南古墳共に、石棺または石室のき損は軽微であるが、保存室や埴丘の一部にき損を生じている。

このうち大戸鼻北古墳は、埴丘の多くが失われていたものにコンクリート製の保存施設を設けている。石室手前の風防室がウレタンで被覆され断熱性の高い構造が特徴である。今回の地震によりその風防室の積石が一部崩落している。次に大戸鼻南古墳は発見された当時はすでに封土を失って露出状態であった石棺に覆土し疑似埴丘とし、前面に風防室を設けている。今回の地震により、入口部の積石が崩落した。また、石棺と風防室のつなぎ目に空隙が生じ、また経年劣化したコンクリート片が落としている。

今回の地震の特徴である数多く発生した余震により、徐々にき損が広がったものと考えられ、耐震建築を含めた今後の修復計画の策定が不可欠である。

6まとめとして

今回の熊本地震は熊本県内に大きな爪痕を残した。

今後、罹災した文化財の修復に向けた取り組みが実施していく中で、文化財は多岐多様であるため、修復方法の検討が対象毎に必要となり、修復完了までには長い年月がかかるであろう。

また、限られた復興予算の中で、国や県指定文化財以外の文化財の修復をどう行っていくのか等、今後の文化財保護行政に課題を残している。

そのような情勢の中、装飾古墳の修復は急務であり、彩色壁画や線刻画が著しい環境の変化に曝される事は避けなければならない。そのためにも、装飾古墳モニタリングで収集したデータの解析を進める必要がある。

装飾古墳館でも装飾古墳モニタリングなど古墳の環境保全に取り組む中で、修復に向けた新しい展示公開施設の整備の在り方を検討していくかたいと考えている。

註1 平成24年5月装飾古墳館による確認。

註2 右に同じく古墳館のまとめによる。

註3 平成28年7月15日以降、新たに宇城市所在の桂原1号墳のき損が確認された。

註4 平成28年8月21日の新聞報道によるところでは、前震以降で最も回数が多い、2000回を超える余震が発生している。

△ コラム 装飾古墳を愛した人 故・池田勝則さんを偲ぶ



(御遺族 撮影)

本コラムでご紹介する故・池田勝則さんは、昭和9年（1934）、東京都にお生まれになり、平成27年（2015）、逝去されました。

池田さんは、神奈川大学工学部を卒業後、株式会社東洋精機製作所で試験機の設計に従事される一方、奥様輝代さんの御縁で、山鹿市チブサン古墳を見学した際、装飾古墳の世界に強く魅了されました。

その後、池田さんは全国の装飾古墳を巡り、生涯で70点余りの作品を残します。この池田さんの作品は、本業であつた精密機械の設計技術に基づく精緻な模写、色鉛筆を用いた投影法が特徴です。

平成28年（2016）、熊本県立装飾古墳館では、御遺族から池田さんの作品59点の寄贈を受けました。これらの作品は、装飾古墳資料として特筆すべきものです。生前、池田さんご本人は、装飾古墳館への来館を強く望まれておりましたが、残念ながら、その想いは叶いませんでした。企画展において、関連する装飾古墳の作品を展示し、ここに生前の池田勝則さんを偲びたいと思います。

なお、平成28年度の博物館美術において、熊本大学文学部歴史学科資料科学コースの実習生6名の協力により、59点の作品を撮影しました。博物館実習の成果として、企画展でもご紹介しています。



チブサン古墳作品

参考文献

木崎康弘 2016 「幾何学装飾柄とは何者か—菊池川流域の装飾古墳の成り立ち」『熊本県立装飾古墳館 研究紀要』12, 1・10。

京都帝國大學文學部考古學研究室編 1917 「肥後に於ける装飾ある古墳 及横穴」『京都帝國大學文學部考古學研究報告第一冊

熊本県教育委員会編 1984 『熊本県装飾古墳総合調査報告書』熊本県文化財調査報告第68集

熊本県立装飾古墳館編 2009 「黄泉の国の彩り 常設展示図録」

熊本県立装飾古墳館編 1993 「装飾古墳の世界」 朝日新聞社

斎藤忠 1989 『壁画古墳の系譜』 学生社

高木正文 1999 「肥後に於ける装飾古墳の展開」『国立歴史民俗博物館 研究報告80』 1999-166。

埋蔵文化財研究会編 2002 『第51回埋蔵文化財研究集会 装飾古墳の展開』

水野清一・小林行雄編 1959 『図解 考古学辞典』 東京創元社

第1図については、JAXA提供「AW 3D TM（全世界デジタル3D地形データ）」をカシミール3Dで加工。それ以外の図版については、当館所蔵・撮影、各機関及び個人からの提供。

* 本図録掲載の写真について、無断掲載を固く禁じます。

全国の装飾古墳シリーズ11

平成28年度企画展Ⅱ

熊本県北の装飾古墳

一円文と三角文がウミダシタモノ—

発行日：2016年9月28日

編集・発行：熊本県立装飾古墳館

〒861-0561 熊本県山鹿市鹿央町岩原3085番地

TEL 0968-36-2151（代）FAX 0968-36-2120

印 刷：株式会社 協和印刷



発行者：熊本県立裝廻古墳館
所 屬：教育総務局文化課
発行年度：平成28年度

平成28年度企画展 II 『熊本県北の装飾古墳』図録 正誤表

本図録に下記の誤りがありました。

関係機関並びに関係者の皆様にお詫び申し上げると共に、訂正をお願いいたします。

ページ	誤	正
18頁 下段3行目	6世紀初頭ごろ	5世紀末
11頁 下段2行目	盾石	楣石

この電子書籍は、熊本県立装飾古墳館 企画展図録 第24集を底本として作成しました。
閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、全国の歴史博物館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：熊本県 北の装飾古墳

発行：熊本県立装飾古墳館

〒861-0561 熊本県山鹿市鹿央町岩原 3085 番地

電話：0968-36-2151

URL：<http://kofunkan.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：西暦 2018 年 6 月 1 日